

祖翁忌兼題句合

幻遊側

巴總連



心遊庵宗匠撰

題納豆

天六六 日本坊

地六〇 林松

人〇 鬼和

納豆や控を起さず湯の湯
引くまじりぬはのたす
箱傳も上座を居る納豆汁
納豆汁一斗都味下休
雀より先へ起さず納豆汁

日本坊
立
土屋
林松
木茅

霞遊庵宗匠撰

題 枯尾花

天六六 米船

地〇 老居

人五 荃甫

折是四月月を押しつ枯尾花
枯尾花再々蓋しつ小枝
老の時の音の世にや枯尾花
笑談 折是近江枯尾花
枯尾花 折是近江枯尾花
地を平の言つたや枯尾花
鬼若毛の殿蓋しつ枯尾花

荃甫
我笑
きあ
斤志
老居
巴十
米船

三遊庵宗匠撰

題時雨

天五八 巴十

地六〇 米船

人〇 月風

枯尾花見送る人の涙世々
枯尾花風を見送る人
夕暮を招き寄る枯尾花

洗志
兼吾
米船

白遊庵宗匠撰

題鉢扣

天六五 昔里

地〇 我笑

人全 巴十

白の御子伸ちみり夕時雨
志々々や三軒屋を渡る
夕暮の時の音の世にや
夕暮の時の音の世にや
夕暮の時の音の世にや
夕暮の時の音の世にや
夕暮の時の音の世にや

我笑
洗耳
兼吾
米船
日本坊
巴十

六〇印

月より星ハ渡りて外に
痛く耳の底子にけり打
月より遠くまで延びて
因兩火二人あつて
居候ふらふへ之高より打
結節しうを向てあつたり
一足公様あつたり千
世を移して
あつたり結ぶる
一のくや巻の
不易流行の道子
花巻楽の松を仰ぐ
月より星あつたり
静かに結屋
あつたり結屋
あつたり結屋

津山
我々
味大
昔男
巴翠
白
雨
企
約
魚
魚
魚
魚
魚
魚
魚
魚

二月五日



特別
A5
6651
28
早稲田大学図書館